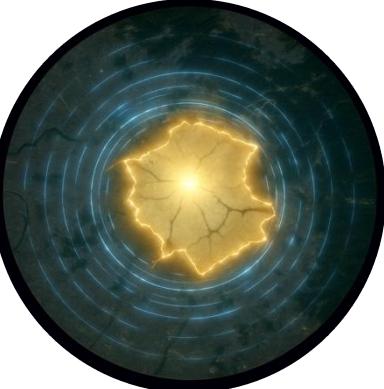
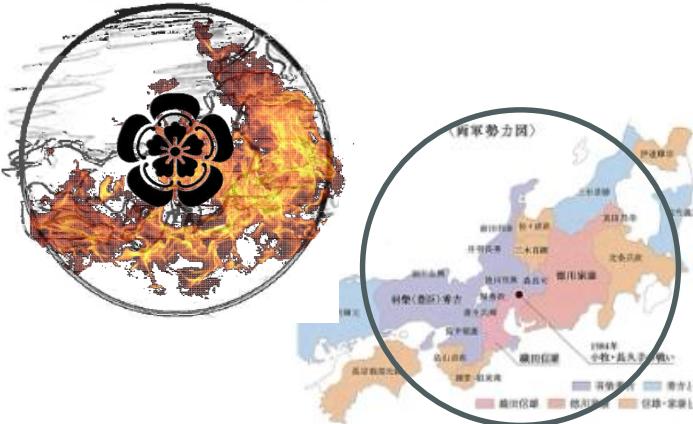


小牧・長久手の戦い ジオラママッピング

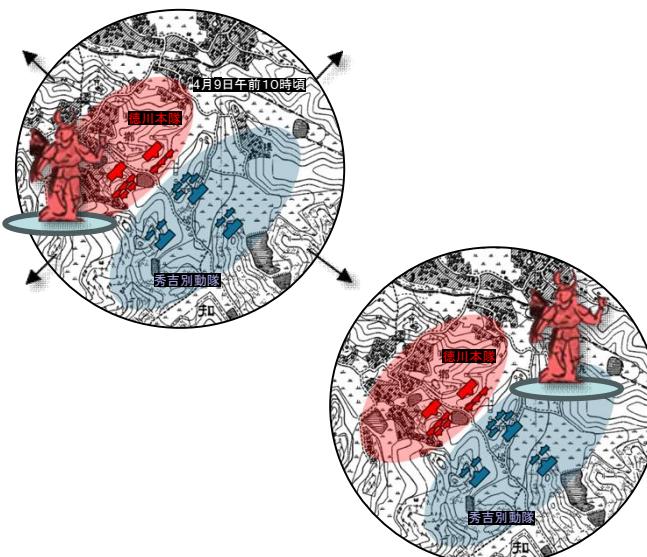
演出構成

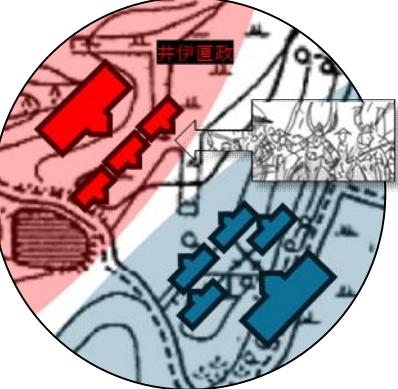
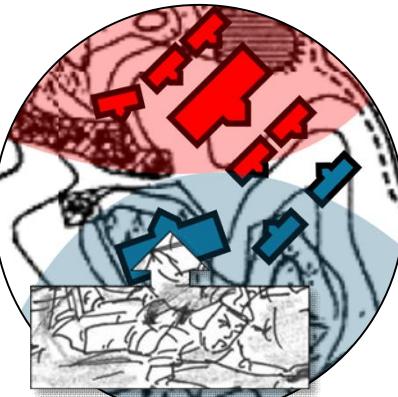
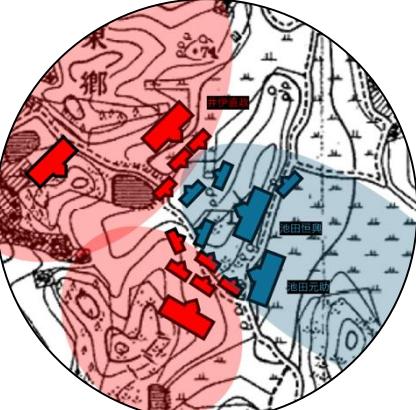
映像	ナレーション・内容
<p>【シーン1:導入(0:00~0:40)】</p> <p>▶地形模型に航空写真などの現代の街並み、雲や飛行機など、リアルタイムのような動画</p>	 <p>(現代の風景：住宅街、道路、ビル、空撮で広がる長久手の街)</p>
<p>▶一部分にスポットライトのような演出 模型の上に武将 池田恒興が立ち挨拶する イラストはシアターと共有</p> <p>▶タイトル浮かび上がる「長久手の戦い」 池田恒興が観客に語り続ける</p>	<p>(池田恒興ナレーション)： やあやあ、よくぞ参られた。</p> <p>この穏やかな町で、 実は——かつて天下を揺るがす戦があったこと、 そなたは知つておるか？</p> <p>そう、「小牧・長久手の戦い」の局地戦、「長久手の戦い」じゃ。 のちの日本の流れを大きく変えた、大大名たちの激突が、 ここで繰り広げられたのじゃ。</p> <p>わしは名を、池田恒興、またの名を池田勝入と申す。 秀吉公に仕えた武将のひとりじゃ。</p> <p>なぜわしが語るのか？それは、わしこそがこの戦いを、 最前線で見届けた男だからよ。</p> <p>誰が動き、誰が倒れ、何が起つたのか——わしが見たままを、 これよりそなたに語つて聞かせよう。</p>
<p>▶タイムスリップ表現 アニメーションで 周りの地形が変わっていく ラインや影など 3Dマッピング表現で 立体感のある動き</p>	 <p>さあ、時を戻すぞ。</p>

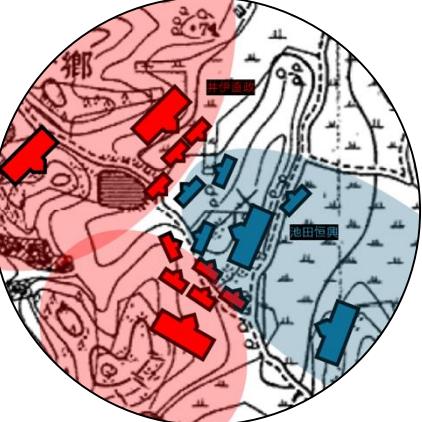
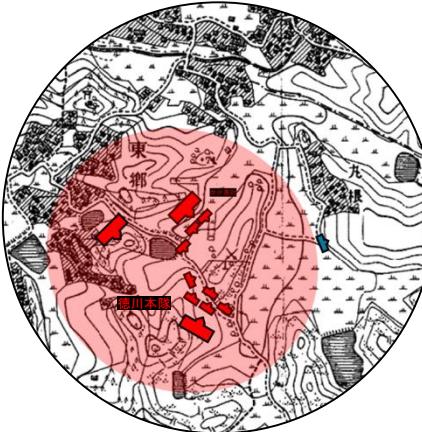
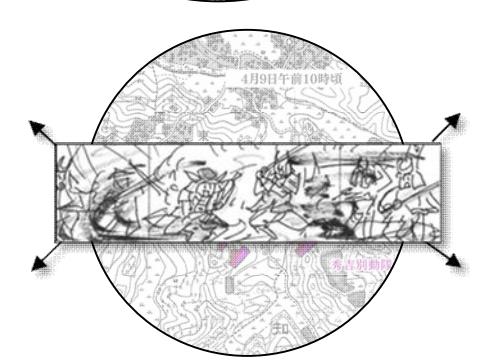
映像	ナレーション・内容
<p>【シーン2:過去へ 戦の背景】</p> <p>▶模型への地形は1584年を彷彿とさせる地形へ 恒興は周りを見渡す</p> 	<p>(池田恒興ナレーション) :</p> <p>おお、ここは間違いなくあの頃の長久手じゃ！ 現代と比べると随分と山や森が広がっておるな。</p>
<p>▶背景が暗くなり、本能寺を中心とした日本が浮上炎に包まれる</p> <p>▶日本地図に秀吉の勢力を表す青墨が広がっていく。 勢力は各地の戦いからも広がっていく</p> 	<p>さて、今がどんな時代かというと、時は、天正十二年。</p> <p>三年前の本能寺の変にて織田信長さまが討たれ、その後継者の座を巡り、天下は大きく揺れ動いた。</p> <p>中でも羽柴秀吉殿は勢いを増し、力を強めてゆかれた。だが、それを良しとせぬ者もおった。</p> <p>信長さまの次男、織田信雄殿。信雄殿は、秀吉殿の動きに反発し、徳川家康に助けを求めた。</p>
<p>▶地形変化 小牧山城と楽田城の位置関係 距離感と 各城の周りの兵の人数など イメージさせる</p> <p>▶太陽の浮き沈みと昼夜の演出 にらみ合いの表現 各陣の上に秀吉と家康の姿</p> 	<p>織田・徳川織田連合軍が小牧山城に、秀吉殿は楽田城に本陣を置き、大軍を従えた。だが、兵の数だけでは勝てぬのが戦の常。両軍、にらみ合いが続いた。</p> <p>この膠着を破るため、わしらはとある策を実行に移した。</p>

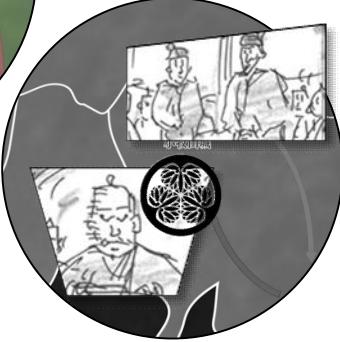
映像	ナレーション・内容
<p>【シーン3:別動隊の出陣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶模型の地形に変化 タイトル 「三河中入り」 以降、 日付と時間が常に表記 マップ上に恒興が立ち戦局を解説 ▶楽田城から別動隊が出陣 背景が暗くなり夜を表現、 たいまつによる隊列 	<p>(池田恒興ナレーション)： 別動隊を使ひ家康が留守にしておる岡崎城を突く、 作戦の名は——のちの世では、三河中入りとも言われておる。</p> <p>四月六日夜半、わしらは動いた。大将は三好秀次殿。 わしと森長可殿が先行し、列を引いて進む。</p> <p>これは隠密行動、敵に悟られぬよう細い山道を抜けていく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ▶小牧山から サーチライトのような演出 徳川勢が小牧山から 小幡城へ移動をしていく 別動隊は途中拠点を 経由しながら移動 時間軸に合わせて 天候昼夜変化 	<p>だが、この動きは織田・徳川方に察知されておった。</p> <p>八日にはすでに、織田・徳川方がこちらを追って ひっそりと動き始めていたのじゃ。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ▶先鋒の池田の位置に 恒興が現れる 恒興の視点が 付近に広がる 岩崎城での戦いの様子 (シアター共有) 戦場のポイントは火が上がり 激突を表現 	<p>そして、九日の早朝。岩崎付近に差し掛かったとき、 岩崎城から攻撃を受けた。</p> <p>わずか三百程度の、手薄な守りだったゆえ、一気に制圧した。 だが、問題は別にあった・・・</p>

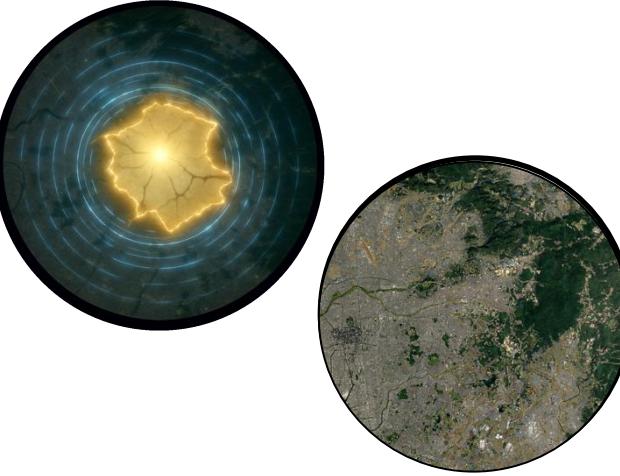
映像	ナレーション・内容
<p>【シーン4：白山林、桧ヶ根】</p> <ul style="list-style-type: none"> 恒興が軍列の伸びを俯瞰で解説する 羽柴軍の列だけハイライト 距離感なども表示 狭い山道を歩く様子がワイプで登場 	<p>(池田恒興ナレーション)： 空からわしらの軍をよく見せてやろう、</p> <p>狭い山道のせいで軍列がこんなにも伸びておる、 これでは連携も取れん。</p> <p>わしらが岩崎を攻める頃、三好殿の本隊や堀殿は遙か後方にて、 兵を休ませ、朝飯を取って油断しておった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 小幡城からの徳川軍の動き ラインが伸びてきて別動隊最後尾にぶつかる その位置にズームアップ 薄暗い早朝 榎原隊が休憩中の三好隊に襲いかかるシーン (シアターライスト) 戦場の場所に炎が上がる タイトル：「白山林の戦い」 	<p>そこへ——（徳川軍の動きが小幡城から伸びてくる）</p> <p>織田・徳川方の榎原康政隊が背後から襲いかかった。 (ズームインして榎原隊が突入)</p> <p>三好兵の声：「て、敵襲だー！！！」 榎原兵の声：「蹴散らせーっ！！！」</p> <p>まだ薄暗い早朝、三好隊は混乱し、一気に崩された。 この戦い——のちに「白山林の戦い」と呼ばれることとなる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 再び模型地形に 三好を破り進む榎原 再び現地にズーム 桧ヶ根の戦いの様子 ズームアウトし、 模型に戻ると 御旗山の位置に家康の金扇が立つ、それを見る堀の姿が ワイプで浮かび上がる 戦場の場所に炎が上がる タイトル：「桧ヶ根の戦い」 	<p>榎原隊は三好殿を破った勢いそのまま進撃したが、 森に伏せていた堀秀政殿の軍に返り討ちに遭う。</p> <p>わずかな時間で勝ちと負けが入れ替わっていく、これが戦じや。</p> <p>堀殿はその後、近くの御旗山に掲げられた家康の金扇の馬標を目にし、家康本隊が近くにいると知って退いた。</p> <p>これが「桧ヶ根の戦い」と呼ばれている。</p>

映像	ナレーション・内容
<p>【シーン5：仏ヶ根に集う】</p> <p>▶ 恒興が岩崎城付近に立つ 軍が反転し戻りだす</p> <p>御旗山に家康が立ち 周囲を見渡し移動を開始する</p>  <p style="text-align: center;">四月九日早朝</p>	<p>(池田恒興ナレーション) :</p> <p>岩崎城に白山林の敗走の知らせが届くや、 わしは軍をすぐに反転させた。</p> <p>その頃すでに、家康は御旗山に登り、戦況を俯瞰しておった。 仏ヶ根の地での決戦を見越し、高台へと布陣を開始していたのだ。</p>
<p>▶ マップは仏ヶ根にズームアップ</p> <p>恒興が登場し解説</p> <p>各軍が配置についていく</p> <p>羽柴と徳川で色分け 小さな群衆の集合体で 軍は表現 人物感</p> <p>羽柴軍</p> <p>徳川軍</p> 	<p>わしらもそれに応じる形で、仏ヶ根に布陣した。 まず、羽柴方の布陣を見てみよう。</p> <p>羽柴方は総勢およそ九千。三つの部隊に分かれておる。 息子の元助が右翼、森長可殿が左翼。 わしはその中央やや後方に控えた。</p> <p>対する織田・徳川方——井伊直政殿がおよそ三千を率いて正面に、 家康本隊が六千余を控える。 (徳川家康軍三十三百余り、織田信雄軍三千余り?)</p>
<p>▶ カメラが地上に降りるように 急降下 そのままシアターの ドローンアングルに切り替わる</p> 	<p>両軍の布陣は、互いに真正面からぶつかる形。 戦力は、織田・徳川方およそ九千三百、羽柴方およそ九千。数は、ほぼ互角。</p> <p>しかし、相手には家康本人が出ておる。 ならば逆に、首を取るまたとない機会よ。 武将たちの目にも、気迫がみなぎっておった。</p> <p>そして——九日、午前十時ごろ。両軍、布陣を完了したのじゃ。</p>

映像	ナレーション・内容
<p>【シーン6:決戦 仏ヶ根】</p> <p>▶軍の様子が細かく変化していく 画面は戦闘の変化のあるポイントにズームしたり引いたりしながら観客は俯瞰で戦場のリアルタイム感を感じる 間にシアターライストが差し込まれる 井伊と元助が近づき鉄砲の打ち合い</p> 	<p>(池田恒興ナレーション) :</p> <p>最初に仕掛けてきたのは、徳川方・井伊直政殿の隊。赤備えの甲冑軍装に身を包み、およそ三千の兵がこちらへ迫ってきた。</p> <p>まずは、右翼の元助の隊とぶつかった。ここまででは、一進一退の攻防。</p>
<p>家康本隊が動き森が迂回し家康本陣に迫るが 鉄砲によって討死 森隊瓦解</p> 	<p>それを見た森長可——さすが“鬼武藏”的異名を持つ男じや。敵の本陣が手薄と読むや、およそ五百を率いて山を迂回。首を取る好機と踏んだのじや。（森隊が尾根を越えて回り込む）</p>
<p>池田本隊と家康本隊がぶつかる ※動きの参考は軍配置参考映像を作成済み</p> 	<p>だが、徳川の鉄砲隊が待っていた。 森長可殿はあと一步のところで討たれてしまった。</p> <p>わしもすぐに前へ出たが、時すでに遅し。 森隊は壊滅し、その隙を突いた家康本隊は、勢いに乗ってわしらの側面へと回り込んできたのじや。</p>

映像	ナレーション・内容
<p>【シーン7：決着】</p> <p>▶攻め込まれ 陣形が崩れていく 池田軍</p>  <p>一度引いた元助が再び 前線に向かうが</p>	<p>(池田恒興ナレーション) :</p> <p>戦線は崩れ、混戦となった。 元助の隊も徐々に押され、陣形が乱れていく。 元助は一時、引いた。だが、敵方の勢いは止まらぬ。</p>
<p>池田恒興と元助は 討ち取られる</p>  <p>正面の井伊直政、側面から責め立てる家康勢、 ・・・ついに包囲される形となった。</p>	<p>わしの窮地を見た元助は単騎で救援に駆けつけようとした。 だが、間に合わなかった。</p>
<p>シアターシーンが 印象的に入る</p>  <p>わしはその目前で討たれた。 そして——追うように、元助もまた斃れた。</p> <p>池田父子、ここに潰える。</p>	

映像	ナレーション・内容
<p>【シーン8:その後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 戦場跡 恒興が模型に立ち 全体が暗い霧になり 恒興にスポット演出 ▶ 暗い霧の部分に 駆けつける秀吉と 帰還する家康の ルートが浮かぶ ▶ 暗い霧の部分に 秀吉と織田の 和睦シーン 徳川の家紋が ゆっくりと浮かび上がる ▶ 暗転から白背景 台詞に合わせて タイトル 「長久手の戦い」が決まる    	<p>(池田恒興ナレーション) :</p> <p>……こうして、戦は終わった。</p> <p>秀吉殿は急ぎ二万の兵を率いてこちらに向かわれたが、家康はすでに小牧へと帰還しておった。</p> <p>この長久手の戦い、勝利を収めたのは織田・徳川方。 しかし、その後、秀吉殿は織田信雄殿と和睦を結び、やがて天下を手中に収めることとなる。 ——が、この戦いで家康が力を示したからこそ、後の歴史が決まったのかもしれません・・・</p> <p>それが、この戦、長久手の戦いの面白いところよ！</p>

映像	ナレーション・内容
<p>【シーン9:エンディング】</p> <p>▶ 1584年の模型地形から 現代に地形が変化 マッピング演出</p> <p>現代の地形へ</p>  <p>▶ 恒興、観客に礼をする マップ上に戦いの史跡が ポイントされていく</p> <p>勝入は消えていく</p> 	<p>(池田恒興ナレーション)： あれから、およそ450年の月日が流れた・・・</p> <p>かつての戦場も、 今では人が行き交う穏やかな良い町となっておる。</p> <p>さて、ここまで耳を傾けてくれて、礼を申す。 もしこの地に立ち寄ることがあれば、少し歩いてみてくれ。 いまもいろいろな場所に、あの頃の気配が息づいておる。</p> <p>それらを通じて、 あの時代の空気をほんの少しでも感じてもらえたなら、 わしとしても嬉しいことだ。</p>
<p>▶ そのまま現代の マッピング状態で</p> <p>史跡のポイントに 写真が浮かぶなど アイドリングタイムへ移行</p> 	